黒岩祐治

明日を語らふ

1999 12/17～

家庭内暴力

目次

[23]家庭内暴力について 3
[24]夫婦間の家庭内暴力について（続き）..... 4

[23]家庭内暴力について

投稿者：赤沼侃史
投稿日：99年12月17日＜金＞08時02分

１６日はスーパーニュースでも家庭内暴力を扱っていました。夫の物理的暴力とシェルターの話だけだったようです。私もこの種の問題を扱っていていて感じていることです。

男性側の問題点は心の傷であると思います。女性側の問題点は依存だと思います。

放送の中で黒岩さんが、「警察がだめだ、やめろと言えば、意外としなくなる」？（正確には覚えていないのですが、このようなこと）と言われたようですが、私もそれで解決する例も無いとは言いません。
しかし多くの例では解決を見ていないし、今後も解決しないでしょう。きっと警察の目の届かないところで続くと思います。それは心の傷による暴力は警察権力のような力では押さえることができないからです。場合によっては事を悪化させて、発作的に殺人にまで至る可能性すらあります。

心の傷による暴力からは逃げるしか当面の回避法はありません。そのような意味ではシェルターの存在は欠かせません。ただ、それが根本的な解決にならないのは、多くの女性が暴力を振るう男性の元へ帰っていくことからも分かります。ではなぜ女性はあれほど嫌だという男性の元へ帰っていくのでしょうか？なぜあれほど嫌だと思った男性の懺悔に心が動かされるのでしょうか？この女性側の問題の解決がない限り、暴力を振るう夫側の思うつぼになってしまいます。このボードを読んでおられる人に考えていただきたい。特に女性に考えていただきたいと思います。

赤沼

[24]夫婦間の家庭内暴力について（続き）

投稿者：赤沼侃史
投稿日：99 年 12 月 20 日 < 月 >10 時 06 分

もう少し夫婦間の家庭内暴力について触れさせていただきます。

日本でも、欧米でも女性は男性に依存する形（経済的にも、精神的にも、性的にも）で生活が成り立っています。それは男性には好都合な社会形態ですし、多くの女性もそれを受け入れて生活しています。なぜそのような形態になっているのかとの分析には触れないで、文化として女性は子供のうちから男性に依存する様に育てられています。自立することを知らない女性は依存する男性に対して回避の行動をとることができません。知識として知っていても、脳の中にたたき込まれた依存の思考形態から逃げ出すことができません。

男性が家庭内で女性（妻）に物理的暴力を加えたとしても、痛みという嫌悪刺激が消失すると、依存関係が女性を縛り付けてしまいます。それに対して男性への依存からの回避行動を身につけている女性は、結婚しないか、結婚してもすぐに離婚してしまいます。つまり日本で言うなら、昔流の男性に尽くす女性に、家庭内暴力の被害者が見られています。もちろん男性に尽くす女性、男性に依存する女性が悪いと言っているのではありません。男性が女性に答えられるだけの能力を持っていればそれも立派な夫婦間のあり方です。

動物実験でも回避できない嫌悪刺激に繰り返しさらされた動物は、その場にうずくまってしまいます。いわゆるすくみです。回避できる条件がそろってもうずくまったままで逃げ出そうとはしません。ところが回避法を既に学習していた動物はすくみの状態を取らないで回避行動をとり続け、逃げれる条件が整うと逃げ出します。これは全く同じではありませんが、人間にも当てはまります。男性への依存関係は女性を暴力を振るう男性のそばに拘束する力です。

この女性の脳の中にたたき込まれた男性への依存から、女性を解放するように自らの思考形態を改革することを助ける（繰り返すカウンセリングで女性が納得する）ことが、この問題の根本であると考えられます。当然その結果として離婚が増えます（女性の中には離婚をしてくれないから男性から逃げれないと訴える人もいますが、それは言葉の上の理由であり、女性の方でその気になれば、離婚届に判を押さなくても逃げ出すことも離婚をすることも可能であるのです）。